

看護学科における初年次教育の  
学生の理解と活用

Understanding and the Utilization of the Student for  
the First-year Experience in the Department of  
Nursing

佐藤美幸、棚崎由紀子、生田奈美可、清水佑子、福森絢子

Miyuki Sato, Yukiko Tanasaki, Namika Ikuta, Yuko  
Shimizu, Ayako Fukumori

人間健康学部看護学科

## 1. はじめに

近年の人口動態の変化による少子化と大学設置基準の大綱化や看護教育の大学教育化により、看護大学が増加している。同時にゆとり世代の大学入学に伴い、学力の低下、学習支援の必要性などが叫ばれ、大学教育の一環としての初年次教育を導入する大学も増加している。

初年次教育とは、高等学校から大学へ円滑な移行を図るため主に大学新入生を対象に作られた総合的教育プログラムであり、平成 23 年には、大学全体の 88%が何らかの形で実施している<sup>1)</sup>。

その背景として、大学分科会制度・教育部会は、「学士課程教育の構築に向けて」<sup>2)</sup>において「学士力」を(1)知識・理解(多文化・異文化に関する知識の理解/人類の文化、社会と自然に関する知識の理解)、(2)汎用的技術(コミュニケーション・スキル/数量的スキル/情報リテラシー/論理的思考力/問題解決力)、(3)態度・志向性(自己管理力/チームワーク、リーダーシップ/倫理観/市民としての社会的責任/生涯学習力)(4)総合的な学習経験と総合的思考力の4つの能力をあげ、大学卒業時まで獲得することが期待させる知識や能力としていることが大きい。

一方、看護系大学においては、看護を取り巻く幅広い知識体系を学び、社会や環境との関係において自己を理解するための素養や、創造的思考力を育成するための教養教育を前提に健康の保持増進・疾病予防を含めた看護師等の基礎となる教育を充実していく必要があるとしている<sup>3)</sup>。

こうした中で、初年次教育は各大学でその内容には特色が見られ、橋本ら<sup>4)</sup>は、初年次教育として「文章表現」を開講し、国語の基礎学力の向上を試みており、楠見ら<sup>5)</sup>は、批判的思考教育の授業プログラムについて紹介している。

A 大学看護学科においては、平成 19 年開学当初から課題解決型の思考獲得を目指し、基礎ゼミナールとして入学直後の前期にグループワークを中心としたゼミナールを行ってきた。平成 24 年のカリキュラム改正にあたり、元来前期 2 単位 60 時間であった基礎ゼミナール(以後基礎ゼミとする)を通年科目とし、初年次教育の位置づけで授業を計画・実施することに変更した。その背景には、地方の私立 4 年制看護大学であり、約半数が推薦入学での入学生であること、また、一般入学試験あるいはセンター試験利用入試においても第 1 志望校の受験に失敗して入学する者も多く、基礎学力の低い学生が含まれており、学生間の学力差が大きいと言わざるを得ない現状にある。4 年間で看護教育を行っていくためには、一刻も早く大学のシステム、講義のスタイル、大学生活に慣れてもらうことと併せて、日頃の学習への姿勢、自己学習の勧め方から日常生活におけるマナーに至るまで指導していく必要性があった。さらに、1 年次の早い段階から看護職を目指す者として目的意識を持ち、自らが目標を掲げて主体的に学習に取り組めるように、キャリアデザインに関する内容も加えている。現在、カリキュラム改正から 4 年間で経過したが、その内容は年度毎の学生の状況を鑑み、過不足を調整しながら組み立てている。これまでの基礎ゼ

ミの評価を行い、今後の課題と方向性を見いだす必要があると考えた。

## 2. 目的

本研究は、初年次教育としての基礎ゼミの効果を学生へのアンケートを通じて評価し、今後の課題を見いだすことを目的とした。

## 3. A 大学における基礎ゼミナールの概要

A 大学看護学科においては、1 年次前期 1 単位（30 時間）、後期 1 単位（30 時間）を配置している。必修科目であり、カリキュラム全体の位置づけは、専門教育科目の中の、看護学の統合、看護の統合と実践である。

基礎ゼミの目的は、①大学生の基礎となるスキルの向上を目指す、②専門分野（看護学）の学習準備をおこなうであり、表 1 のような目標を立てて行っている。

それぞれの内容は、前期では、「大学で学ぶということ」、「建学の精神」「ノートテイキング」「リーディングスキル」「レポートの書き方」「図書館の使い方、文献検索と情報の整理」「マナー研修」「グループワークの方法および実践」である。後期は、「看護職を目指すということ」「プレゼンテーションスキル」「グループワーク」などである。前期の初めには「1 年間の目標」と「4 年後に目指す自分について」をレポートとして書かせ、前期終了時点で自己評価をさせている。

後期の初めには前期の反省を踏まえてあらためて目標を記入させ、後期終了時には 1 年間の振り返りを行っている。

また、先に述べたように統合科目としての位置づけにあるため、キャリア支援の内容として、「卒業生からのメッセージ」、「マナー講座」、「グループワーク」などを取り入れている。

これらの内容は年度毎に担当者が前年度の反省や改善点、その年の状況等を考慮して検討をした上で計画している。そのため、年度により内容が若干異なる。

表に平成 24 年度～平成 26 年度の基礎ゼミの内容を示す（表 1 - 4）。

各年、入学者は 90 名～100 名の間であり、入学生を 4 つのグループに分け、1 グループにつき教員 3～4 名が指導にあたっている。

平成 25 年度からは、学生自身の自己管理と計画的な自己学習への意識づけを目的に A シート（図 1）と取り入れている。

なお、A 大学においては、開学当初から「基礎ゼミナール」の科目があり、グループワークを中心に 1 年次前期に行っていたが、5 年目より先に示したような初年次教育の要素を取り入れて通年開講している。

表1 基礎ゼミナール前期の内容 (H25年度)

	テーマ	課題等
1	オリエンテーション、「看護職を目指すということ」(学部長、タイムマネジメント)	課題①、②
2	大学で学ぶということ(1), 建学の精神/学園について(理事長)	
3	ノートテイキング(1)	課題③
4	ノートテイキング(2)	
5	図書館の使い方、文献検索と情報の整理	
6	マナー身だしなみ	
7	リーディングスキル	課題④
8	レポートの書き方(1)	課題⑤
9	レポートの書き方(2)、医療チームについて(全学合同:GW)	
10	コミュニケーション能力(書く・聞く・伝える)	
11	グループワークの方法	課題⑥
12	グループワーク(1); 看護師を目指した理由	
13	グループワーク(2); 理想の看護師像	
14	グループワークの発表	
15	基礎ゼミナール前期のまとめ、評価・目標設定	最終レポート

表2 基礎ゼミナール後期の内容 (H25年度)

回数	テーマ	課題等
1	後期に臨む大学生としての姿勢(学部長)、後期オリエンテーション、後期目標の設定	課題①
2	自己紹介、基礎ゼミのGWの進め方、レポート作成(復習)と倫理的な問題	
3	看護職を目指すということ(1) <卒業生からのメッセージ>	天声人語、課題②
4	看護職を目指すということ(2) <グループディスカッション>	
5	グループワークについて(グループディスカッション、発表の方法)	
6	話し方講座(キャリアカウンセラー)	課題③
7	グループワーク(テーマ決定から発表まで)	天声人語
8		
9		
10	プレゼンテーションスキル(講義)	
11	グループワーク(続き)	天声人語
12		

13		
14	プレゼンテーション	
15	基礎ゼミナールのまとめ、今後の目標設定	課題④

表3 基礎ゼミナール前期の内容 (H26年度)

回	テーマ	課題等
1	オリエンテーション、「大学で学ぶということ」(学部長)、大学構内の案内	
2	大学で学ぶということ(1)	課題①②
3	建学の精神/学園について(学長)、グループ別オリエンテーション	課題③
4	聞く力(1):ノートテイキング①	天声人語① 課題④
5	喫煙について(外部講師)	
6	聞く力(2):ノートテイキング②、読む力(1):リーディングスキル	天声人語② 課題⑤
7	読む力(2):まとめ、書く力(1):レポートの書き方①	天声人語③ 課題⑥
8	書く力(2):レポートの書き方②	天声人語④
9	読む力(3):新聞の読み方(外部講師;新聞社)	課題⑦
10	マナー・言葉使い(キャリアカウンセラー)	課題⑧
11	伝える力(1):コミュニケーション(外部講師)、GW①:看護職を目指した理由	
12	チーム医療(看護職、福祉職、心理職の役割)、GW②:チーム医療について	課題⑨
13	卒業生からのメッセージ	課題⑩
14	GW③:キャリアデザイン(看護職を目指す者として将来を見据えた計画)	天声人語⑤ 課題⑪
15	基礎ゼミナール前期のまとめ、評価・目標設定	課題⑫

表4 基礎ゼミナール後期の内容 (H26年度)

回数	テーマ	課題等
1	後期に臨む大学生としての姿勢(学部長)、後期オリエンテーション、後期目標の設定	課題①②
2	グループワークについて(グループディスカッション、口頭発表の方法)	
3	自己紹介、基礎ゼミのGWの進め方、レポート作成(復習)と倫理的な問題	天声人語、
4	将来に向けたマネーマネジメント(生活に役立つお金の話)(外部講師;AFP)	課題③
5	GW「マネーマネジメント」と発表	1分間スピーチ 課題④
6	GW②-1:「自分の生活を見つめよう」+中間発表	天声人語
7	GW②-2:先週の続き+発表、次回GWのテーマの決定	1分間スピーチ 課題⑤



## 5. 倫理的配慮

アンケートに際し、口頭および文書で研究の目的、プライバシーの確保、データの適切な処理、参加の自由と不利益がないこと等について説明し、同意する場合にのみ記入し、回収箱に提出してもらった。なお、本研究は、宇部フロンティア大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（第 2014004 号）。

## 6. 結果

アンケートに回答したのは全体で 153 名（回収率 92.7%）、うち 3 年生は 67 名 2 年生 86 名で、男子 38 名、女子 115 名であった（表 5）。

表5 属性 人(%)

項目		全体	2年	3年
人数		153 ※	86	67
性別	男	38	18	20
	女	115	68	47
自己学習	ほぼ毎日	18(11.8)	12(14.0)	6(6.7)
	週5回	20(13.1)	14(16.3)	6(6.7)
	週3回	42(27.5)	28(32.6)	14(15.6)
	週1回	42(27.5)	20(23.3)	22(24.4)
	ほとんどしない	30(19.6)	12(14.0)	18(20.0)
1回あたりの学習時間	1時間以内	29(19.0)	18(20.9)	11(12.2)
	1～2時間	84(54.9)	45(52.3)	39(43.3)
	3時間以上	21(13.7)	14(16.3)	7(7.8)
	ほとんどしない	18(11.8)	8(9.3)	10(11.1)
睡眠時間	平均(SD)	5.9(±1.1)	6.0(±1.0)	5.8(±1.1)
通学時間	平均(SD)	26.8(±28.4)	28.3(±30.4)	24.9(±25.8)
アルバイト	している	108(70.6)	64(74.4)	44(65.7)

※(回収率 92.1%)

生活を見ると、全体の 11.8%はほぼ毎日学習しているものの、ほとんどしない者が 19.6%であり、3 年生の方がその割合が高かった。睡眠時間は平均 5.9（±1.1）時間であり、アルバイトは、70.6%がしていると回答した。

基礎ゼミの「理解度」と「活用度」の結果を表 6 に示す。

基礎ゼミの『内容の理解』は、理解度の高い内容から「マナー（4.04±0.85 点；平均±SD 以後同じ）」「看護職を目指すということ（卒業生との交流）（4.02±0.83）」「キャリア支援（3.86±0.88）」であった。『現在役に立っているか』の質問には、「マナー（4.10±0.90）」「看護職を目指すということ（4.10±0.90）」「レポートの書き方（4.05±0.98）」が高く、「天声人語の書き写し（3.24±1.08）」「図書館の使い方（3.41±1.16）」「リーディングス

キル (3.50±0.98)」が低かった。

表6 基礎ゼミナールの理解度と活用度 平均 (SD)

内容	内容が理解できているか(理解度)			役に立っているか(活用度)		
	全体(153名)	2年(86名)	3年(67名)	全体(153名)	2年(86名)	3年(67名)
ノートテイキング	3.70(0.84)	3.76(0.84)	3.62(0.86)	3.38(1.11)	3.62(1.02)	3.07(1.15)
リーディングスキル	3.67(0.87)	3.76(0.84)	3.55(0.90)	3.50(0.98)	3.65(0.89)	3.30(1.05)
図書館の活用	3.67(1.03)	3.73(1.02)	3.59(1.04)	3.41(1.16)	3.53(1.08)	3.25(1.33)
マナー研修	4.04(0.85)	4.08(0.78)	3.98(0.94)	4.10(0.9)	4.21(0.73)	3.95(1.07)
レポートの書き方	3.85(0.92)	3.99(0.90)	3.67(0.92)	4.05(0.98)	4.31(0.82)	3.70(1.06)
グループワーク	3.84(0.87)	3.94(0.83)	3.71(0.91)	3.86(0.85)	4.02(0.77)	3.66(0.91)
看護職を目指すこと	4.02(0.83)	4.02(0.82)	4.02(0.86)	4.10(0.90)	4.17(0.88)	4.00(0.92)
キャリア支援	3.86(0.88)	3.95(0.84)	3.74(0.92)	3.88(0.96)	4.09(0.86)	3.59(1.01)
プレゼンテーションスキル	3.70(0.89)	3.76(0.93)	3.61(0.82)	3.76(0.89)	3.95(0.84)	3.51(0.89)
天声人語	3.62(1.0)	3.66(1.05)	3.56(0.91)	3.24(1.08)	3.24(1.15)	3.24(1.00)
レポートの提出	3.85(0.84)	3.94(0.86)	3.72(0.80)	3.77(0.96)	3.88(0.96)	3.64(0.96)
Aシート(H25年度より導入)	-	3.74(1.03)	-	-	3.03(1.18)	-

基礎ゼミについて意見を図2に示す。

基礎ゼミはわかりやすく (91.5%)、受講してよかった (86.3%) との回答が多く、77.8% が現在の学習に役に立っていると回答している。また友人ができた (84.3%)、教員との関わりが持てた (88.2%) の回答も多く、74.5% がコミュニケーション能力が高まったと回答した。

将来の目標が明確になった (58.2%)、4年間どう過ごせばよいかわかった (59.5%) と将来が見えたのは半数強であり、グループワークが大変 (69.9%)、レポート課題が大変 (80.4%)、Aシートが大変 (2年生のみ) (80.2%) との意見も目立ったが、基礎ゼミがないほうがいいとの回答は27.5%にとどまった。

## 7. 考察

基礎ゼミは、複数の教員が主担当となり全体の運営にあたり、実際の授業では、ほぼ全員の教員が前期、後期のいずれかに関わっている。学生は4グループに分かれ、3~5名の教員がその指導に関わる。また基礎ゼミとは別に、1年生のうち20名程度を2名の教員で受け持つチューター制度も取り入れ、学習・生活指導を行っている。

学生への調査からは、マナーや話し方や、卒業生の体験談や卒業生との交流が理解度、活用度ともに高かった。これらの内容は、日常の生活や実習にすぐ役立つ内容であるとともに、身近な先輩たちの現場で生き生きと働いている様子を実際に聞くことができ、自分の将来像と重ねることができたのではないかと考える。卒業生との交流はまだ看護の入り口に立ったばかりの1年生にとっては、特に興味を持てる内容であると考えられる。何より、



現場で実際にどのように働いているのか、どんな苦勞があるのかといったことから、学生時代を振り返ってのアドバイスを年齢が近く、自分たちと同じ道を歩いて行った卒業生が話をすることに価値がある。

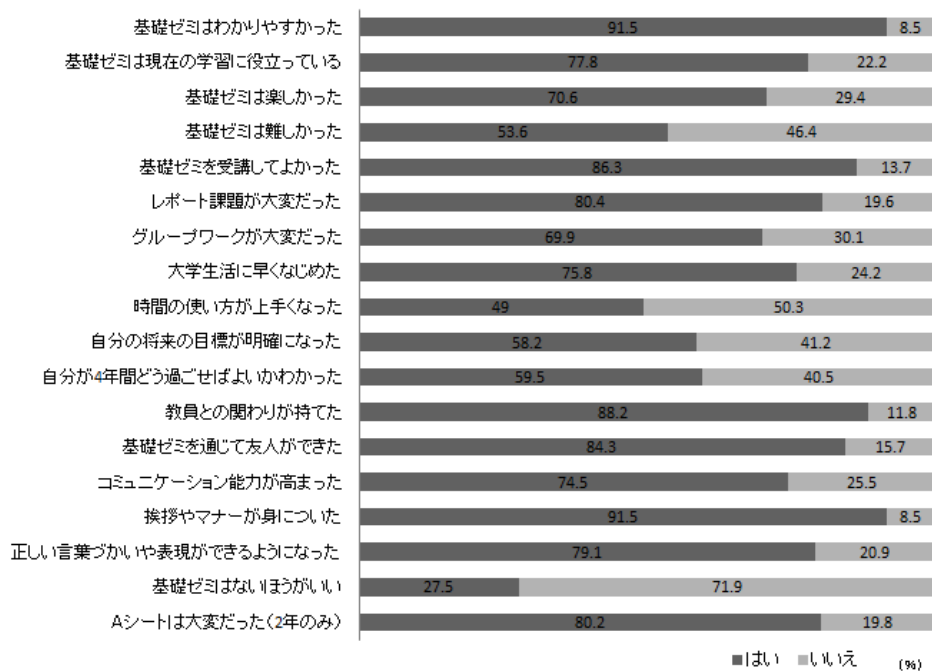


図2 基礎ゼミナールに対する学生の意見

内容学習支援の内容については、レポートの書き方が役立っているとの回答が多く、リーディングやノートテイキングなどについては理解と活用が低いことが伺われた。リーディングやノートテイキングは個人の方法も取り入れながら学生自身が工夫していくべきことであり、実際の学習場面では実感しにくいことが考えられるが、レポートは形式や表現から内容、引用文献の上げ方に至るまで、決められたことが守られる必要がある。実際にレポートを作成する上で、必要不可欠な知識であり、役立っていると感じやすいのであろう。Aシートについては、理解はしていても活用はできていない。1年次のみでなく、その後も学生生活指導等で活用できないかと考える。しかしながら、全体的に見ると理解、活用ともにできている項目も多く、基礎ゼミは初年次教育としての役割が果たせていると考える。

初年次教育は1970年代後半から80年代前半にかけて、多くのアメリカの高等教育機関で導入されたことが始まりである。日本では、2000年代に入ってから多くの大学に休息に導入されるようになり、2008年の中教審の答申『学士課程教育の構築に向けて』以降学士課程教育の中に明確に位置づけられた<sup>6)</sup>。山田<sup>6)</sup>によると国立教育政策研究所の2007年の調査では、日本の大学における普及率は97%であるという。A大学の初年次教育の内容は、山田の調査の初年次教育内容で重視する内容として高得点であった項目をほぼカバーして

いる。その点では、A大学の基礎ゼミの方向性は正しいといえるだろう。

基礎ゼミの目的のひとつに大学環境への適応がある。高校の受動的な学習から大学の能動的な学習スタイルへの転換、90分という長時間の講義などの学習環境に加えて、生活自体の環境の変化が著しい。A大学は、地方の都市に位置し、通学可能な範囲に限られる上、県外出身者も多い。従って高校を卒業し知らない土地で初めて一人暮らしをする者や入学直後で友人も少ない者も多い。入学時からグループで指導を行い、学生の意見にも、友人ができた、教員との関わりが持てたという意見も多かったが、教員にとっても、少人数での指導により、目が行き届き、学生の生活状況を含め、学生自身を知る機会となっており、教員にとってもメリットは大きいと考える。また、Aシートに教員がすべて目を通し、コメントを入れるため、学生個々の状況の把握が早期に行え、気になる学生についてはチューターとの連携も取れるというメリットがあり、Aシートの意義は大きいと考える。

今回は基礎ゼミナールを履修した後の2年生、3年生へのアンケートの結果のみの報告であるが、今後縦断的な調査を行うとともに、学年間の比較や学業成績等との比較も行いたい。

## 結論

本研究は、初年次教育としての基礎ゼミナールの効果を評価し、今後の課題を見いだすことを目的にアンケート調査を行った。その結果、以下のことが明らかとなった。

1. マナーや話し方の講座、卒業生の体験談や交流が理解度、活用度ともに高かった。
2. レポートの書き方はその後の学習に役立っていた。
3. 基礎ゼミナールは初年次教育としての役割が果たせている。

## 謝辞

本研究にあたり、ご協力いただきました学生の皆さんに深謝いたします。

## 引用文献

- 1)文部科学省：大学における教育内容等の改革状況について、2013
- 2)文部科学省：大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告、2011
- 3)文部科学省、大学分科会制度・教育部会：学士課程教育の構築に向けて、2008
- 4)橋本美香、新見明子、黒田裕子：日本語力向上のための初年次教育の実践ー日本語教員と看護科教員の協働による下位クラスの学生に対する「文章表現」取り組みー、川崎医学会誌一般教、38、25-32、2012
- 5)楠見孝、田中優子、平山るみ：批判的思考力を育成する大学初年次教育の実践と評価、認知科学、19(1)、69-82、2012
- 6)山田礼子：大学における初年次教育の展開ーアメリカと日本、Journal of Quality Education、2、2009